

Ⅲ 6. 容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績

(1) 令和5年度容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績

容器包装廃棄物の減量化やリサイクルを推進するため、平成7年6月に「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」（以下、「容器包装リサイクル法」という。）が成立し、市町村等では「市町村分別収集計画」を策定し、平成9年度から計画的な分別収集が行われている。県では、これら市町村等の分別収集計画を取りまとめた「千葉県分別収集促進計画」を策定し、容器包装廃棄物の分別収集状況等を把握している。

令和5年度における実施状況をみると、前年度と比較して全品目について、概ね横ばいで推移している。

紙製容器包装については、12市町村の実施にとどまり、分別収集があまり進んでいない状況にある。

令和5年度容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績※

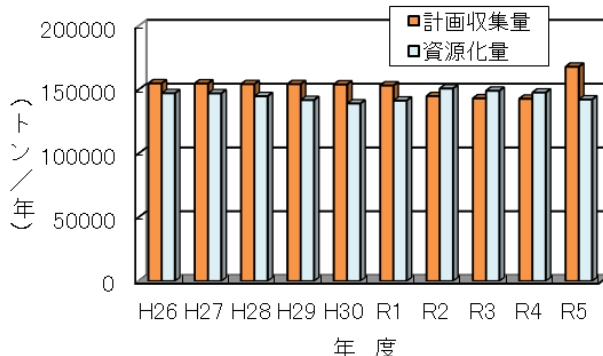
品目		計画量 (t)	収集量 (t)	収集率 (%)	再商品化量 (t)	再商品化率 (%)	計画 市町村数	実施 市町村数
		(A)	(B)	(B/A)	(C)	(C/B)		
ガラス 包装 製容	無色	15,560	13,118	84.3	12,939	98.6	52	51
	茶色	10,466	8,890	84.9	8,730	98.2	52	51
	その他	12,266	10,437	85.1	10,274	98.4	54	54
ペットボトル		20,119	19,679	97.8	19,086	97.0	54	54
紙製容器包装		2,076	541	26.1	460	85.0	19	12
プラスチック製容器包装 (白色トレイ含む)		28,012	28,791	102.8	24,831	86.2	33	32
鋼製容器包装		8,234	6,419	78.0	6,385	99.5	53	53
アルミニウム製容器包装		11,808	9,559	80.9	9,514	99.5	53	53
飲料用紙製容器包装		1,016	485	47.8	485	100.0	49	42
段ボール		58,443	49,711	85.1	49,638	99.9	54	54
全品目		168,000	147,632	87.9	142,341	96.4		

※ 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

(2) 計画収集量及び再商品化量の経年変化

容器包装リサイクル法の分別収集対象品目は、平成9年度に分別収集が開始された時点では、無色ガラス、茶色ガラス、その他のガラス、ペットボトル、鋼製容器包装、アルミニウム製容器包装、飲料用紙製容器包装の7品目であったが、平成12年度からは紙製容器包装、プラスチック製容器包装、段ボールの3品目が追加され、現在に至っている。

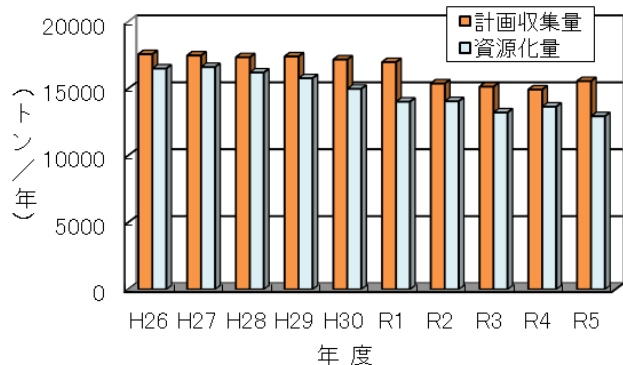
容器包装廃棄物の資源化量



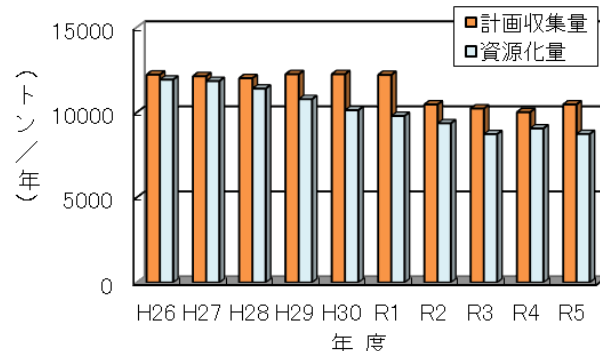
再商品化された容器包装廃棄物の総量は、近年では約15万トンと横ばいで推移している。

また、品目別の再商品化（資源化）量状況をみると、飲料用として広く利用されていた鋼（スチール）製容器包装、及びガラスびん（無色・茶色）が減少傾向にある一方、ペットボトルが増加傾向であり、段ボールは令和2年度に増加してから横ばいとなっている。他の品目については増減が見られるものの、概ね横ばいである。

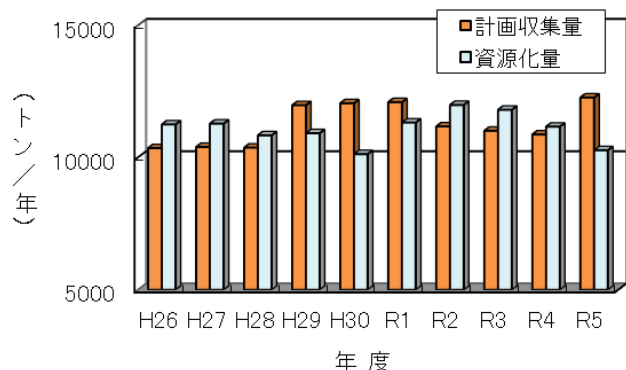
①無色ガラスびん



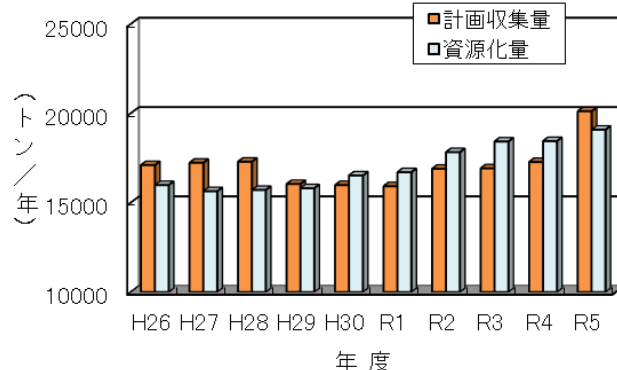
②茶色ガラスびん



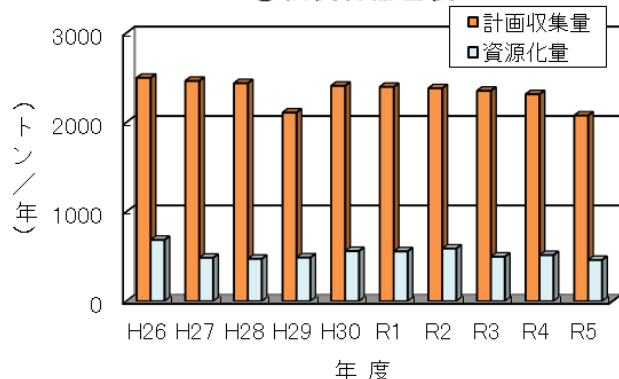
③その他のガラスびん



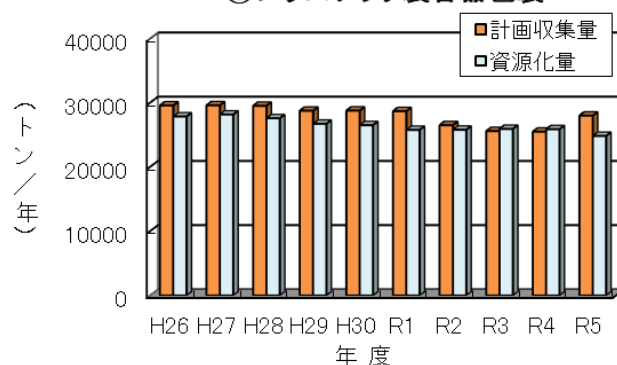
④ペットボトル



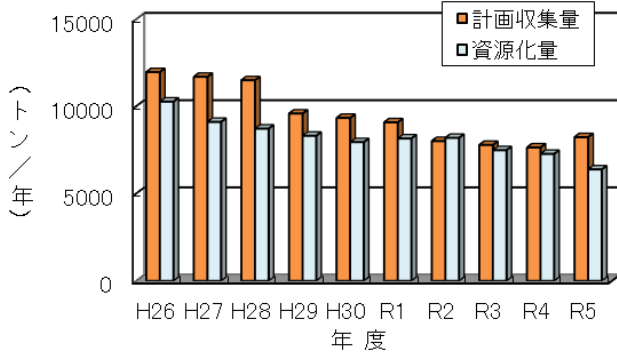
⑤紙製容器包装



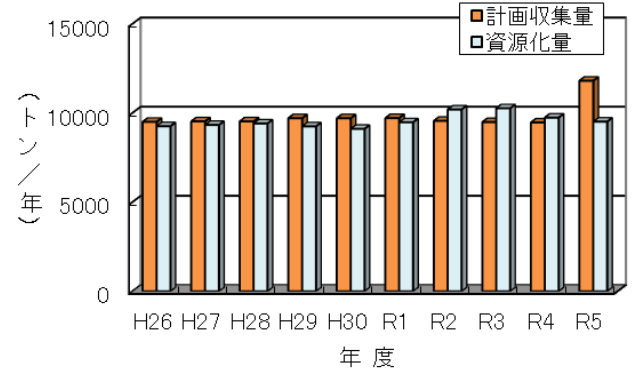
⑥プラスチック製容器包装



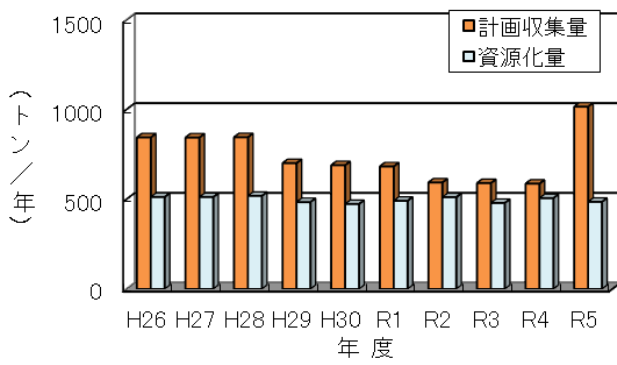
⑦鋼製容器包装



⑧アルミニウム製容器包装



⑨飲料用紙製容器包装



⑩段ボール

